

お取引先さま各位

## カカオ・チョコレート週刊ニュース 22号

2012/10/29 発行

株式会社 立花商店

生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

### 1、カカオ市況：26日カカオ相場ニューヨークは反落、ロンドン続落(10/26)

西アフリカ諸国の収穫が予想を上回るとの見方が台頭する中で、買い持ちの手じまい売りに押された。ただ商いは薄く、投機筋やファン筋は引き続き大規模な買いポジションを維持している。ニューヨーク市場の12月きりは反落、19ドル（0.8%）安の2383ドルで引けた。ロンドン市場の3月きりは続落。10ポンド（0.6%）安の1544ポンドで終了した。200日間移動平均線の1535ポンドは上回った。市場は、固定の農家販売価格が導入される2012～13年度の当初数週間の動向を引き続き注視している。

### 2、2012/2013年度生産のカカオ豆品質が改善＝基準強化でコートジボワール(10/26)

コートジボワールのコーヒー・ココア評議会（CCC）は26日、2012～13年度（12年10月～13年9月）生産のカカオ豆の品質が厳しい品質基準の導入により改善していることを明らかにした。今月3日に始まった同年度から導入した品質基準では、CCCは輸出時点のカビ汚染カカオ豆の最大許容値を4%、最大水分値を8%に設定した。前年度はそれぞれ8%、12%としていた。農家から集荷したカカオ豆の出荷時の水分値が9%を超えている場合、各港での受け入れが拒否されることになる。このため、輸出業者の間では当初、品質基準の強化で受け入れ拒否の確率が高くなるとの懸念が高まった。今回の基準改革ではまた、農場の保証出荷価格をキロ当たり725CFAフラン（1.43ドル）に設定した。カカオ豆事業改革は、農家の収入増と老朽化したカカオ豆農園への再投資の促進を主に目的としているが、CCCは、保証価格の設定と新たに強化した品質基準が生産業者によるカカオ豆の発酵・乾燥処理の改善につながると期待している

### 3、集荷最新情報：コートジ産カカオ豆 10/21 までに 51,000 トンが着荷(10/22)

コートジ産のカカオ豆の港への着荷が10月3日の新シーズン開始から10月21日までで約51,000トン着荷したと、輸出業者筋の統計で報じられた。昨年同時期の着荷数量は50,381トンであった。

輸出業者が仲介業者への買付け資金提供を新制度の下で終えたことで、港への着荷は今後増えていくと見込まれるが、ここ最近数週間の雨がカカオ豆の品質で課題を残す可能性があるという輸出業者筋は語る。

輸出業者は、10/15～10/21の1週間の間で、同国の二つの輸出港へ大凡36,000トンが着荷したと見積もっており、昨年の同時期の22,622トンに比べ上昇した。

輸出業者によれば、現在港に着荷しているカカオ豆の大半は、同国内の磨砕業者が強いココアバター的需求を背景に買い付けているものだとしている。

海外輸出向けのカカオ豆の着荷は輸出業者がカカオ豆を生産者から集荷し、港まで運ぶ仲介業者へのマージン金額が新しい構造改革の開始時期と重なり不確定だった為、支払いが遅れていたが、現在、丁度輸出業者の仲介業者への資金支払いが開始され、港への着荷が始まった。

『今月の終わりまでには、輸出業者は皆、仲介業者への支払いを終了し、仲介業者は農園の中に入るだろう』アビジャンベースの欧州系の輸出業者の役員は言う。

『仲介業者への支払いで問題が解決されれば、我々は週間で50,000トンは集荷することが出来るだろう』

アビジャン港とサンペドロ港に着荷するカカオ豆のボリュームはペースが速まっていくと予測される一方で、輸出業者は珍しく数週間続いた激しい雨が品質に悪影響を及ぼし、多くの港へ着荷した貨物が返却されるのではないかと懸念をしている。

『我々は、雨による豆の品質をとっても心配している。なぜなら、既に多くのカカオ豆で、発酵がされておらず、乾燥も十分でないものを見ているからだ。我々はそれらの受け取りを拒否せざるを得ない』世界的なカカオ輸出業者のアビジャンのトップは言う。

『得に、この先数週間は更に悪い品質のものが集荷され、着荷してくるのではないかと恐れている』

#### **4、2012/2013の世界カカオ豆市場、15万トン超の供給不足＝オラム社予想(10/24)**

商品商社オラム・インターナショナルのゲリー・マンレー氏によると、2012/2013年度の世界カカオ豆市場は需要の伸びが供給を上回り、15万トン超の供給不足に陥ると予想されている。前年度は10万トン強の供給過剰だった。

主産国であるコートジボワールとガーナの生産量は前年度の水準を維持する一方、需要は前年度の圧砕データで示唆されている以上に堅調に伸びる見込みで、前年度比では約2.5%増加する見通し。

コートジボワールの現在のメインクロップは推計110万トンと、前年度の113万トンから若干減少。2010/2011年度は138万トンだった。

また、2012/2013年度の同国の総生産量は145万トンと、前年度の157万トンからの減少が予想されるという。

『コートジでは、夏を通じて乾燥した天候と、降雨量は平均より10%程度少なかった、多くの西アフリカの生産地で良好なメインクロップの収穫が期待できるが、以前の最高数量には届かないであろう』

一方、ガーナは、2012/2013メインクロップはおおよそ60万トンで昨年の62万より減少見込み。シーズン全体では、2012/2013シーズンは、76.5万トンと予測されていた。

しかしながら、マンレー氏は、コートジとガーナのミッドクロップは単に年間の平均と、傾向から判断

ただけであり、現在の乾燥した天候は現在まだ木に実がなり始めているミッドクロップの収穫に影響を与えるかもしれないと付け加えた。

『メインクロップに関しては、乾燥した天候はブラックポッド\*を減らし、木になるカカオポッドの数の保つのに貢献している』

世界第3位のカカオ生産国であるインドネシアはカカオの病害により引き続き収穫数量の拡大に課題を抱えている。『我々の最大の懸念はいつもインドネシアだ。我々は2012/2013 クロップは50万トンを大きく下回ると予測している』とマンレー氏は語り、得に cocoa pod borer 病\*が深刻な問題であるとしている。

\*ブラックポッド・・・ブラックポッドはカカオの実に対する真菌性疾患（降雨量が多いときに発生しやすく、西アフリカでのカカオの疾患としては最も影響の大きいもの）



\*Cocoa Pod Borer (CPB) 病・・・Cocoa Pod Borer という害虫による病気

CPB=Conopomorpha (=Acrocercops) crammerella

害虫が写真中央のようにポッドに穴をあけて中に入り込み、写真（左）のようにカカオポッドの中身に危害を及ぼす。写真（右）がCPB。アジアのカカオ生産国で得に深刻な被害を及ぼしている。



## **消費国のカカオ豆在庫は減少！**

マンレー氏によれば、コートジでは新しい農家買い付け価格が発表され、新シーズンは例年に比べ非常にゆっくりと開始されたことと、先物市場認証カカオ在庫が少ない事が起因して先物のカカオ価格を下支えすると語っている。

『コートジのあらしい構造改革の影響で、新シーズンはゆっくり開始されており、輸出向けの出荷も遅くなることが見込まれており、新物の欧州の港への到着は 12 月か、来年早々になる見込みだ』  
ロンドンの先物市場の認証在庫はデーターを報告し始めた 2002 年依頼最も低い水準に現在ある。

『先物市場は現物のカカオ豆価格と同様のレベルまで価格が上げる必要がる、現在の先物カカオ価格は実際のカカオの取引価格より低い価格だからだ』

『先物市場で重要なことは、現物のカカオ価格との適切な関連性を保っていることだ』  
コートジ産の直近積み出しの価格は、3 月積み出し価格は、現在ロンドン先物市場の 3 月限月価格+60 ポンドとなっている。

マンレー氏は、この 5 カ月一気に価格の上昇を続けてきたココアバターの状況が示す通り、磨砕業者のカカオ豆在庫はかなり減少してきていることを付け加えた。

『これは、発表されている統計資料としての磨砕数量の数字よりも、実際の消費はずっと強い事を示しており、我々は、2012/2013 年の世界のカカオ需要は 2.5%の成長は確かだと考えているし、それよりも高くなるだろうと信じている』

『磨砕数量は、何の在庫を製造したかと、どこで製造したかを問うもので、我々が見極めるべきは、消費で何が起きているかということである』

マンレー氏は、ココアバターの在庫がほぼなくなった事が、2012 年の第 4 四半期と 2013 年の第 1 四半期の磨砕数量には明るい材料になるだろうと語っている。

オラム社は現在サンペドロ港付近に年間磨砕数量 70,000 トン規模の工場を現在設立しており、2013 年末より操業を開始する予定だ。

オラム社は世界 4 大カカオ豆商社の 1 つ。本社はシンガポールだが、カカオ豆担当チームはロンドンを拠点としている。

## **5、カメルーンカカオ豆輸出 9 月は前年度比 7.7%減少(10/26)**

カメルーンの 2012/2013 シーズンの 2 カ月目にあたる 9 月のカカオ豆輸出数量が 25,490 トンに達した。これは昨年の 27,636 トンよりも 7%以上低い数字である。カカオ&コーヒーボード (NCCB) が統計を発表した。

前月にあたる 8 月度の輸出数量 12,308 トンと比較してみると 2 倍以上の数字になっている。

NCCB の職員やトレーダーによれば、この下落は多い降雨と曇りの天候が続いたことで、乾燥工程が遅れたことと、舗装されていない道路事業が雨で悪化した為であると説明している。

『私は確かに、8 月中旬からとても雨が多い事を危惧している。多い雨は乾燥工程を遅らせるだけでなく、ブラックポッド病の発生も引き起こしているからだ』中央州の集荷業者兼輸出業者の人間は心配する。

カメルーンのカカオシーズンは、8月1日～7月31日でメインクロップの収穫は1月/2月まで続き、その後、収穫量の小さいミッドクロップへ移行する。

輸出業者の数は、8月の18社から9月には24社に増加した。

9月度の統計ではオラム社の関連企業であるオラム・カム社がトップで5,671トンの輸出（先月4163トン）、カーギル社との合弁企業であるTelcar社は4,050トン（先月1204トン）、また、カメルーンマーケティングコモデティ社は4,100トン（先月2,909トン）であった。

中央アフリカ諸国は2011/2012シーズンでは病害や害虫の影響で収穫数量が前年の20万トンより減少し、合計18万トンのカカオ豆を輸出した

### カメルーン国内磨砕業者

カメルーンの内磨砕業者は新シーズンがスタートした8月から9月末までで合計11,984トンのカカオ豆を購入したとカカオ&コーヒーボードが発表した。

これは、昨年の同時期の合計の5,836トンを2倍以上上回る結果である。

この数字の内訳は、トップ企業のSIC CACAO社が8月4,624トンに対して、9月は6,559トンを買付け、CHOCOCAM社は8月458トンに対して、9月は343トンを買付けた。

SIC CACAO社は、スイスのバリーカレボー社の関連企業で年間の磨砕可能数量は30,000トンで、主にチョコレート製品を中央アフリカ市場に流通させている。

CHOCOCAM社は、南アのTIGERブランドの子会社で、規模としては小規模の工場であるが、チョコレート関連製品を主にカメルーン国内で販売している。

**\*現在の連続シリーズの特集である『フェアトレード特集』は次回フェアトレードラベル・ジャパン様へのインタビューを予定しており、継続しておりますが、今週は引き続き、お休み致します。**

〈お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先〉

株式会社 立花商店 東京支店 生田 TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp